



2012年8月10日発行



今回の紙面から (ページと内容)

1. 第30回記念大会のお知らせ
2. 第6回国際春季フォーラムのご案内
理事会より
3. 編集委員会より
5. 大会運営委員会より
学会賞委員会より
2011年度会計報告
6. 2012年度予算計画
事務局より

第30回記念大会のお知らせ

日時：2012年11月10日(土)～11日(日)

場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 西校舎・
南校舎

(〒108-8345 東京都港区三田2-15-45)

創立30周年記念大会は、開催校、大会運営委員会、記念事業ワーキンググループのご尽力により、着々と準備が進められています。今大会のスケジュールは以下の通りです。公開特別シンポジウムは第1日の午後、特別ワークショップは第2日の午前と午後に予定しております。

11月10日(土)

9:30～11:45: 従来型ワークショップ(スチューデント・ワークショップを含む)

12:00～12:50: 総会

13:00～14:55: 研究発表

15:15～18:00: 公開特別シンポジウム

18:20～19:50: 懇親会

11月11日(日)

9:30～12:05: 研究発表(第七室、九室は
12:45まで)

9:30～12:15: 特別ワークショップ

13:30～16:15: 特別ワークショップ

今年度は、従来型のワークショップ6件(うち、スチューデント・ワークショップ2件)、研究発表

37件、公開特別シンポジウム1件、特別ワークショップ3件が予定されています。公開特別シンポジウムと特別ワークショップの内容は以下の通りです。([]内は司会者、()内は講師と題目、“(E)”はシンポジウムまたは個別講演での使用言語が英語であることを示します。)

A. Language, Cognition, and Human Nature: Prospects of Linguistics (E) (公開) [Yukio Otsu] (Cedric Boeckx: “Not Chomskyan Enough”, William Croft: “Studying Language as a Complex Adaptive System”, Lyle Jenkins: “Emergence and Prospects of Biolinguistics as a Natural Science”) Discussants: Akira Watanabe, Seizi Iwata and Tetsuya Sano

B. Current and Future Issues in Biolinguistics (E) [Koji Fujita] (Lyle Jenkins: “Biolinguistics: Current State and Future Prospects”, Heizo Nakajima: “The Language Design Factors in Syntactic Construction Design”, Masanobu Ueda: “On the Nature of the Naturalistic Approach in Biolinguistics”, Kazuo Okanoya: “Limitations in the Artificial Grammar Learning (AGL) Paradigm and New Directions in Cognitive Biology of Language”)

C. Basic Operations of Syntax (E) [Naoki Fukui] (Cedric Boeckx: “On Merge: Biolinguistic Considerations”, Hiroki Narita: “Towards No-Tampering Syntax”, Masakazu Kuno: “Merge and Search”) Discussants: Takaomi Kato and Mihoko Zushi

D. Typology of Event Semantics and Argument Encoding (E) [Toshio Ohori] (William Croft: “Directed Change, Manner and Result Verbs, and Resultatives”, Kimi Akita: “A Frame-Semantic Analysis of the (Limited) Flexibility of Mimetic Verbs”, Hiroaki Koga: “How to Express Deictic Information in Encoding Self-/Non-Agentive and Agentive Motion in English and Japanese”)

公開特別シンポジウム “Language, Cognition, and Human Nature: Prospects of Linguistics” については、本シンポジウムに限り非会員でも無料で参加できます。

本大会の詳細につきましては、同封の「大会資

料・プログラム」、および9月以降日本英語学会ホームページに掲載されます発表要旨とワークショッププログラム（ともにダウンロード可能）をご覧ください。

◇ 大会当日の受付について

大会当日は受付にて大会参加費（2000円）をいただき Conference Handbook と名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください（公開特別シンポジウムのみ参加費と名札なしで入室できます）。また、11月10日（土）の受付は、例年より30分早く、11時30分より開始します。お早めにお出かけ下さい。

◇ 総会について

10日（土）の12:00より12:50まで総会を開催します。（例年より10分早く開始されます。）総会では、会長挨拶、開催校代表ご挨拶、大会運営委員会、編集委員会、広報委員会、学会賞委員会、事務局からの報告、学会各賞授賞式などがあります。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

◇ 懇親会について

10日（土）18:20より19:50まで、南校舎4階「ザ・カフェテリア」において会員懇親会（会費4000円（学生3000円））を催します。是非ご参加下さい。

◇ 証明書等の発行について

全国大会出席のため、所属機関に提出する証明書等が必要な方は、返信用封筒を同封の上、下記までご請求下さい。書式が定まっている場合には証明印以外の部分を記入したものをお送りいただければ幸いです。

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2 開拓社内
日本英語学会事務局

◇ 学内食堂の利用時間

10日（土）のみ、昼食時に学内食堂をご利用になれます。11日（日）は休業のため、昼食をご持参頂くか、近辺のレストラン、コンビニエンスストアのご利用をお勧めいたします。同封の大会資料・プログラムをご覧ください。

第6回国際春季フォーラムのご案内

第6回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

日時：2013年4月27日（土）・28日（日）

場所：東京大学本郷キャンパス

（〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1）

研究発表とワークショップの募集につきましては、同封の案内をご覧ください。

理事会より

○ 会計

2011年度収支決算書および2012年度予算計画書が、6月24日開催の第64回理事会にて審議の結果、承認されました。

収支決算と予算計画の内容については、このニューズレターの、5ページから6ページをご覧ください。

○ 役員の異動

評議員（退任）

有元将剛氏、河野武氏、中村捷氏、原田かづ子氏、藤原保明氏、小田真幸氏、山崎和夫氏、宮良信詳氏が2012年3月31日付で評議員を退任されました。

監事（退任）

金子義明氏が2012年3月31日付で監事を退任されました。

学会賞委員会委員長（退任）

今西典子氏が2012年3月31日付で学会賞委員会委員長を退任されました。

ご退任のみなさま方、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

評議員（新任）

2012年4月1日付で、以下の8氏が評議員に就任されました。

大堀壽夫氏（東京大学）、岡崎正男氏（茨城大学）、高野祐二氏（金城学院大学）、田中俊也氏（九州大学）、時崎久夫氏（札幌大学）、長谷川宏氏（専修大学）、星宏人氏（秋田大学）、山田英二氏（福岡大学）

任期は、2014年3月31日までの2年間です。

評議員 (継続)

2012年3月31日付で退任されました上記8名以外の100名の評議員の方々には、2012年4月1日付で、引き続き評議員を務めていただくことになりました。

任期は、2014年3月31日までの2年間です。評議員の名簿は、日本英語学会のホームページに掲載されておりますので、ご覧ください。

監事 (新任)

2012年4月1日付で、米山三明氏 (成蹊大学) が監事に就任されました。任期は、理事就任に伴い退任となった金子義明氏の残任期間である2014年3月31日までです。

学会賞委員会委員長 (新任)

2012年4月1日付で、廣瀬幸生氏 (筑波大学) が、学会賞委員会委員長に就任されました。任期は、2013年3月31日までです。

○ 第31回大会 (2013年度) の開催校

来年度の大会は、2013年11月に福岡大学にて開催される予定です。詳細については、2013年1月末に発行予定の『え〜ごがく』58号にてお知らせいたします。

○ ELSOK との交流について

2012年4月20日に韓国英語学会 (ELSOK) との交流を深める合意書の調印式が神戸にて執り行われました。主な合意内容は、相互の大会への講演者の招聘、学会誌の交換、相互の大会での発表応募ならびに学会誌への投稿の権利を両学会の会員に認めることを含みます。合意書ならびにELSOKの学会誌への投稿、大会での発表応募に関しましては、学会ホームページ (<http://elsj.kaita-kusha.co.jp/01.html>) を御覧ください。

○ 日本英語学会特別賞の授与決定

日本英語学会特別賞選考委員会 (大庭幸男委員長、中村捷委員、大津由紀雄委員) の審査結果をうけ、故宇賀治正朋氏に日本英語学会特別賞を授与することが2012年7月18日付けで理事会により承認されました。詳細は2013年1月末に発行予定の『え〜ごがく』58号に掲載いたします。表彰式は、第30回大会の総会にて行う予定です。

○ 訃報

本学会の理事、評議員、第8代会長をおつとめになられました原口庄輔先生が2012年6月7日に逝去なされました。日本英語学会へのご貢献に感謝いたしますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。なお、obituaryがEL29巻2号に掲載されます。

編集委員会より

◇ 2011年度EL研究奨励賞受賞論文の決定について
EL28巻に掲載された Article 3 編 (Syntax 1, Semantics/Syntax 1, Historical Linguistics 1)、Brief Article 2 編 (Syntax 1, Historical Linguistics 1) あわせて5編の中から、1次審査通過論文として選定された Article 2 編 (Syntax 1, Historical Linguistics 1)、Brief Article 1 編 (Syntax 1) あわせて3編について、編集委員長、副委員長を含めた6名の最終選考委員により最終審査が行われ、その結果をもとに最終選考委員会として以下の2編を受賞論文として決定しました。

渡辺拓人氏: On the Development of the Immediate Future Use of *Be About To* in the History of English with Special Reference to Late Modern English (Historical Linguistics)

赤埜治之氏・原口智子氏: On the Categorical Status of Japanese Relative Clauses (Syntax)

◇ *English Linguistics* 第29巻1号 (2012年春号) の刊行について

EL29巻1号 (春号) が刊行されました。Article 2 編、Brief Article 1 編、Notes and Discussion 1 編、Review 10 編が掲載されています。

◇ *English Linguistics* 第29巻2号 (2012年秋号) の応募論文について

2012年4月1日締め切りで投稿された一般論文の総数は14編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 9 編 (Syntax 5, Syntax/Semantics 1, Semantics/Syntax 1, Cognitive Linguistics 1, Historical Linguistics 1)、Brief Article 1 編 (Semantics 1)、N&D 4 編 (Syntax 2, Syntax/Semantics 1, Semantics 1) でした。また、「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、Article 1 編 (Syntax)、Brief Article 1 編 (Semantics) でした。

以下の表は、EL29巻2号に掲載される態憑によ

る Review Article および Review も含めた審査結果 (2012年7月23日現在) です。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	9	3	3	0	3
BA	1	0	1	0	0
N&D	4	3	1	0	0
RA	2	2	0	0	0
Review	13	12	1	0	0
4ヶ月書き直し					
AR	1	1	0	0	0
BA	1	0	1	0	0
合計	31	21	7	0	3

なお、「特別企画 2011」の事前審査 (2011年12月15日締め切り) に応募され採用となった「特集テーマ: Distribution of Nominal Elements across Categories and Their Interpretation」のもとで執筆され、2012年4月25日に一括投稿された論文 (Brief Article 相当論文4編と Introduction) は、一般論文とは別に現在審査中です。

◇ English Linguistics 第30巻1号 (2013年春号) への投稿について

2013年6月発行の *English Linguistics* 第30巻1号の応募締め切りは、2012年9月20日 (木) 24時 (必着) です。応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成してネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ 「特別企画 2012: 特集テーマによる一括投稿論文」の公募について

編集委員会は、*EL30* 巻の編集に向けて、本年度も「特別企画 2012: 特集テーマによる一括投稿論文」の公募を行うことを決定しました。事前申し込みの締め切りは、2012年12月15日です。6月初旬には公募案内が学会 HP に記載されていますのでご覧の上、ご応募ください。

◇ 「特別企画: 特集テーマによる一括投稿論文」の公募対象の変更について

従来、「特別企画一括投稿」の公募対象を、当該年度の日本英語学会国際春季フォーラム、日本英語学会年次大会および日本英文学会英語学部門、の三者におけるシンポジウム、ワークショップに限る形で、公募を行ってききましたが、今後は学会

を限定せずに「国内外の学会等で、シンポジウムあるいはワークショップ等の企画として特定のテーマを設定して発表された研究内容をもとに、複数の論文を一括して発表する場を提供するもの」として公募することが決まりました。

◇ EL 投稿規定の改正について

EL 投稿規定の改正について以下の通りお知らせします。

【旧】

1. 本誌は日本英語学会の機関誌として年2回発行する。論文は英語で書かれたものとし、応募者は原則として会員に限る。論文は未公開のものに限る。ただし、すでに口頭で発表したもの、または *JELS* やワーキングペーパー、紀要などに掲載された論文に相応の修正・発展を加えたものは、その旨明記している場合に審査の対象となりうる。日本英語学会大会の研究発表・シンポジウム・ワークショップで発表が予定されているものは、発表前の投稿を認めない。原稿の締切期日は4月1日と9月20日 (いずれも必着) とする。
8. 執筆者には掲載論文の pdf 版を進呈する。
9. 信頼できる英語の母国語話者に英文のチェックを受けることが望ましい。

【新】

1. 本誌は日本英語学会の機関誌として年2回発行する。論文は英語で書かれたものとし、応募者は原則として本学会および本学会と相互協定を締結した学会の会員に限る。なお複数名の共著の場合、少なくとも1名が学会員 (または本学会と相互協定を締結した学会の会員) でなければならない。論文は未公開のものに限る。ただし、すでに口頭で発表したもの、または *JELS* やワーキングペーパー、紀要などに掲載された論文に相応の修正・発展を加えたものは、その旨明記している場合に審査の対象となりうる。日本英語学会大会の研究発表・シンポジウム・ワークショップで発表が予定されているものは、発表前の投稿を認めない。原稿の締切期日は4月1日と9月20日 (いずれも必着) とする。
8. 出版に際して、カラー図版等で通常の印刷費を超える場合には、当該費用を著者の負担とする。
9. 執筆者には掲載論文の pdf 版を進呈する。
10. 信頼できる英語の母語話者に英文のチェックを受けることが望ましい。

大会運営委員会より

◇ 第30回大会個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表には60件の応募があり、審査の結果、本大会では37件の研究発表が行われることになりました。

◇ 第5回国際春季フォーラム報告

第5回国際春季フォーラムは、2012年4月21日(土)・22日(日)の両日、甲南大学において開催されました。今回のフォーラムでは、韓国英語学会からお招きした講師による講演2つを含む4つの招待講演、20の口頭発表、5つのポスター発表が行われました。98名の参加者があり、活発な議論が展開されました。フォーラムの運営を支えてくださった開催校の有村兼彬先生をはじめとする開催校委員の先生方と学生の皆さん、奥野忠徳実行委員長をはじめ国際春季フォーラム実行委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心よりお礼申し上げます。

学会賞委員会より

◇ 新人賞と学会賞(論文)の応募状況

2012年度の新人賞と学会賞(論文)は5月31日に締め切られました。有資格者の2011年度EL研究奨励賞受賞者から、新人賞に1件の応募がありました。現在選考委員会において厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催される日本英語学会総会で報告されます。

◇ 学会賞(著書)の応募状況

5月31日に締め切られた2012年度の学会賞(著書)には残念ながら応募がありませんでした。来年度は、奮ってご応募ください。

日本英語学会 2011 年度会計報告

2011年度収支決算書(2012年4月1日現在)が監事(萩原裕子氏、米山三明氏)による監査を経て、6月24日開催の第64回理事会で承認されました。

日本英語学会 2011 年度収支決算書

2012年4月1日

日本英語学会会長 稲田俊明

収入(①)	¥24,474,177
支出(②)	¥11,890,157
2012年度への繰越	¥12,584,020

【収入内訳】

2010年度より繰越	¥10,839,417
会費	¥10,449,030
大会参加費(春・秋)	¥900,000
大会助成金	¥1,016,400
JELS購入金	¥18,400
科研費と利息	¥800,148
利息	¥1,691
雑収入	¥449,091
寄付	¥0
合計①	¥24,474,177

【支出内訳】

EL刊行費	¥2,621,799
NL等印刷費	¥115,731
業務委託関係費	¥1,868,505
事務委託費	¥1,100,470
発送費	¥768,035
大会関係費	¥1,803,065
印刷費	¥519,343
運営費	¥602,462
謝金	¥681,260
JELS29関係費	¥894,810
委員会関係費	¥1,156,643
旅費	¥1,040,245
会議費	¥116,398
事務局関係費	¥3,239,604
賃貸料	¥0
人件費	¥2,755,568
通信費	¥282,171
消耗品費	¥0
謝金	¥0
交通費	¥201,865
資料コピー費	¥0
その他	¥0
新人賞・特別賞費	¥90,000
協賛学会への助成	¥100,000
特別事業費への繰り入れ	¥0
予備費	¥0
合計②	¥11,890,157

日本英語学会 2012 年度予算計画

以下に記載いたします2012年度予算計画書が6月24日開催の第64回理事会で承認されました。

日本英語学会 2012 年度予算計画書
2012 年 6 月 24 日現在

2011 年度より繰越	¥12,584,020
2012 年度収入	¥13,702,100
	¥26,286,120
2012 年度支出	¥14,920,000
2013 年度への繰越	¥11,366,120
	¥26,286,120

【収入内訳】

会費 (2012 年度)	¥11,335,100
大会参加費 (春)	¥212,000
大会参加費 (秋)	¥800,000
科研費	¥900,000
利息	¥5,000
雑収入	¥450,000
寄付	¥0
合計	¥13,702,100

【支出内訳】

EL 刊行費	¥3,000,000
NL 等印刷費	¥200,000
業務委託関係費	¥3,300,000
事務委託費	¥1,800,000
発送費	¥1,500,000
大会関係費 (春)	¥360,000
印刷費	¥10,000
運営費	¥300,000
謝金	¥50,000
大会関係費 (秋)	¥1,900,000
印刷費	¥600,000
運営費	¥800,000
謝金	¥500,000
JELS30 関係費	¥900,000
委員会関係費	¥1,400,000
旅費	¥1,200,000
会議費	¥200,000
事務局関係費	¥3,220,000
賃貸料	¥0

人件費	¥2,800,000
通信費	¥100,000
消耗品費	¥50,000
謝金	¥10,000
交通費	¥200,000
資料コピー	¥10,000
その他	¥50,000
学会各賞費	¥190,000
記念品	¥50,000
副賞	¥130,000
賞状	¥10,000
協賛学会への助成	¥50,000
特別事業費への繰り入れ	¥200,000
予備費	¥200,000
合計	¥14,920,000

2012 年度内収支

2012 年度収入	¥13,702,100
2012 年度支出	¥14,920,000
	¥ - 1,217,900

2013 年度への繰越

2011 年度繰越	¥12,584,020
2012 年度内収支	¥ - 1,217,900
	¥11,366,120

[備考] 特別事業費 (別会計) の現在の残高は 500 万円ありますが、今年度の 30 周年記念事業にその中から 100 万円使用予定となっております。

事務局より

○ 会員数について

2012 年 3 月 31 日現在の会員総数は、1560 名です。

○ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られました振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2 年間滞納されますと、会員規定第 3 条第 4 項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

○ 学生会員登録について

学生会員登録には継続手続きが必要です。指定された期日までに手続きをしない場合には、通常会員

として会費請求がなされますので、ご注意ください。

今年度の手続きは、2012年4月25日（水）に締め切りました。

手続きの方法については、日本英語学会ホームページをご覧ください。

○ 日本英語学会からの各種お知らせについて

研究発表応募規定、EL投稿規定、学会賞・新人賞の応募規定等が改定される場合には、ニューズレターとホームページにてお知らせいたします。特に、ホームページには最新の情報が掲載されますので、定期的に関覧することをお勧めします。

○ ELへの論文投稿に関するお願い

ELに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております投稿規定をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。

編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「投稿論文のEL掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記ください。開拓社から送られる自動応答の着信確認用の受領メールに返信する形で、連絡メールを送信しないでください。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信ください。

JELSや所属機関のワーキングペーパー等に掲載された研究（の一部）を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、謝辞に必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用ください。

○ EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、日本英語学会事務局あてお知らせください。

また、最近、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」の整備が急速になされつつあり、ELに掲載された論文をそれに登録したいとご希望が寄せられています。日本英語学会で

は、発行後4年以上経過した論文の登録をお認めしています。この場合も日本英語学会事務局あてお知らせください。

EL論文の再録やレポジトリ、アーカイブへの登録をご希望の場合の連絡先のメールアドレスは、以下のものです。

メールアドレス：elsj-info@kaitakusha.co.jp

○ JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS掲載論文についても、再録、および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局までEメールでお申し出ください。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載を認めることになりました。

連絡先のメールアドレスは以下のものです。

メールアドレス：elsj-info@kaitakusha.co.jp

○ EL公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをさせていただきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

○ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡することが通常の状態になっています。つきましては、メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡いただき、電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

連絡方法については、学会ホームページをご覧ください。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようお願いいたします。万一、返信の未着あるいは遅着にて、行き違いが生じた場合には、ご容赦お願い申し上げます。

○ 外部査読者登録（更新）のお願い

「日本英語学会外部査読者登録へのお願い（2012-2013）」を事務局から送信いたします。今年の8月下旬から9月上旬にかけても、登録のお願いを送信する予定であります。外部査読者登録制度への会員の皆様のさらなるご支援をお願いいたします。

○ 親と子の部屋について

今年も大会会場に「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。利用ご希望の方は、同封の「親と子の部屋利用案内」をご覧のうえ、事務局までご連絡下さい。

なお、この部屋の使用に関する一切の責任は利用者が負うものとし、学会は一切責任を負いませんのでご了承下さい。

編集後記

稲田会長のもと現事務局も3年目を迎えました。

昨年度まで2年間編集委員会、理事会の書記業務を務めた増富和浩氏と村尾治彦氏が勤務校業務の都合上退き、4月1日付けで岡部玲子氏、田中公介氏に引き継ぎました。（ただ、増富、村尾の両氏には引き続き新書記への業務の助言、サポートをお願いしています。）

したがいまして、以下の陣容で、引き続き稲田会長の在任期間中、日本英語学会の運営と事業の実行をサポートいたします。

事務局長：西岡宣明（九州大学）

編集委員会・理事会書記：

岡部玲子（日本大学）

田中公介（産業医科大学）

大会運営委員会・評議員会・広報委員会書記：

松元浩一（長崎大学）

財務・国際春季フォーラム書記：

廣江 顕（長崎大学）

前会長の原口先生の訃報が突然6月にとどき驚きました。大会の際に本部に来て激励していただいた先生の笑顔が忘れられません。本年度は、韓国英語学会（ELSOK）との会員間の交流も始まり、30周年記念大会も間近に迎えようとしております。昨年度、大会直前に逝去された宇賀治先生と原口先生のお二人には、日本英語学会の活動を

お見せすることができず、誠に残念ですが、日本英語学会の発展にご尽力くださった先生方、皆さまのご期待に添えますよう微力ながら事務局一同、精一杯務めたいと存じます。これまでと変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（西岡・岡部・田中・松元・廣江）

2012年8月10日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 稲田 俊明

発行所 日本英語学会

<http://elsj.kaitakusha.co.jp/>

〒113-0023

東京都文京区向丘1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900
